

## 第 1 回農林公園見直しに関する懇談会議事録

日 時	平成 1 6 年 3 月 2 9 日 ( 月 ) 午前 10 時 00 分 ~
場 所	市役所 1 4 A 会議室
出席者	委員側 ( 10 名 ): 藤本委員, 井熊委員, 山田委員, 増田委員, 佐藤委員, 小池委員, 菅野委員, 鈴木委員, 伊澤委員, 床井委員,
事務局	農務部長 他 8 名
発 言 要 旨	
	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ ( 農務部長 )</li> <li>・委員紹介</li> <li>・会長選出</li> </ul> <p style="padding-left: 40px;">委員の互選により, 藤本委員を選出。会長からあいさつ</p> <p>2 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>( 1 ) 懇談会の設置について [ 報告事項 ]</li> <li>( 2 ) 会議の公開について 原則公開【了承】</li> <li>( 3 ) 「農林公園の見直し」について</li> <li>( 4 ) その他</li> </ul> <p style="padding-left: 40px;">事務局から, 資料に基づき説明</p> <p style="text-align: center;">- 説明後 意見交換 -</p>
会 長	ご意見・ご質問等がありましたら, お願いします。
山田委員	決算状況の関係で質問なのですが, 平成 12 年度に単年度赤字になり翌年度から改善が図られ, 経常利益については倍増しているということで, 平成 13 年度にあたってどのような変化があったのでしょうか。また, 何か設備投資をしたとかそういうことではないですか。
事務局	特に大きな要因があったとは聞いておりません。多分, 広告宣伝費等の固定経費を削減するなど, 経費の削減によって改善を図ったと思います。また, 設備投資については建物と土地は全て市の財産ですので大規模な修繕や投資は市が行っています。小規模な修繕, 今のところだと 20 万円以下の修繕についてのみ, 榑ろまんちっく村で行っています。
増田委員	平成 12 年度に大幅に経常利益が落ちましたが, その原因は探られましたか。その時にリストラなどを行ったために一応利益は上がりますが, 逆に売上が落ちたことも考えられますね。
事務局	人件費を下げたということは聞いておりません。広告・宣伝費を大幅に下げたということはその当時あったかと思います。
山田委員	榑ろまんちっく村の課題ということで言うと, 決算状況の経常利益の推移と当期利益

	<p>の推移のバランスに何か問題なり課題がありそうな気がします。ただ、農林公園全体としては別だろうと思います。</p>
菅野委員	<p>入場者数についてですが、平日と土日の曜日別の違いが分からないのですが。昨日とおとといの二日間行ってみました、それぞれかなり入っていました。</p>
事務局	<p>統計的に取っていませんが、2月1日の日曜日は約4,800名、月曜から金曜は約1,500から2,000名、また次の2月7日、8日の土日は約3,000から4,500名となっております。だいたい土日の二日間で平日の五日間と同じくらいという状況です。</p>
会長	<p>2月は入場者が落ちこむ月ですか。</p>
事務局	<p>2月は入場者が落ちこむ月です。</p>
山田委員	<p>今の質問に関連して、来場者について月や曜日の推移であるとか、年齢構成であるとか、何かプロフィールあるいは動向が分かるものはありますか。</p>
事務局	<p>来場者につきましては、毎年アンケート調査を行っていますので、年齢や動機などは把握しています。</p>
小池委員	<p>宇都宮市内の人と、県外の人と市以外の人割合はどうなっていますか。</p>
事務局	<p>入場者アンケートによりますと、5割が市内、3割が県内、2割が県外という結果が出ています。年齢は半数以上が40歳代から50歳代で高齢層の女性の方が多いという特徴があります。</p>
増田委員	<p>市場調査の分析結果をどうこういう前に、どういうねらいで、どういう客をねらってこの施設が造られたのか、農林業の振興というのは判りますが、商売としてはどのへんをマーケットとして捕らえてきたのかというところがあまり見えません。言われてみると分かりますが、今の動きに合わせて改善するとか、施設をどうするのかという本当は全部反対でして、逆ではないかという気がします。</p>
井熊委員	<p>今のご指摘のとおり、今後施設投資などする場合でもターゲットが決まっていなくて、どのようなものにしていこうとしているのか分からない。もう一つは、赤字になっている施設を実際にどのような人が利用しているのか、物販施設に流れているのか、どのくらい温泉施設にいつているのか、公園内での回遊状況がどのようになっているのか少し分かりづらい。もう一つは宇都宮市としてこの施設をどのくらいまで支えていくつもりがあるのかということをはっきりさせる必要がある。現在3億円の維持経費をかけているが、今後は施設の更新費が増えていくはず。ライフサイクルでの財務負担をどこまで負うつもりがあるのかを押さえておいたほうが良いと思います。それから先程の3億円の話で、委託料が若干減ってはいますが、売上収入が減っているのに委託料が維持されるような契約になっているとすれば、民間企業は安易に経営を改善しようと思えば委託料分の依存を増やし、安定収入・安定経営し、冒険しないようになる。3億円の中でなるべくやり繰りをしていった上で話ですが、やはりこれからは、三セクなり民間なりに委託していく場合でも、売上業績などをきちんと評価の中に入れていかないといけないと思います。この事業を拡大できなかったときには委託費を削っていくという委託の方針を取って行かないと縮小均衡経営になってしまうので全体がもたないように思います。</p>

佐藤委員	入場者数または売上等の損益分岐点はどのあたりに数字があるのかということと、具体的な年度ごとの数値目標はありますか。例えば、入場者数にしても売上にしても、入場料を取っていないので、直接売上にはつながらないと思いますが、今までの統計などから、だいたい年間どれくらいの入場者数を平成16年度は目標に掲げているとか、そういうものは具体的にありますか。
事務局	損益分岐点までは現場のほうでも算出していません。売上目標や入場者目標は毎年(株)ろまんちっく村としては設定しています。次期の売上目標や損益目標は立てていますが、例えば、だいたい前年度の1割増しとか5%増しとか、そういった数字の売上目標を掲げているのが実情です。
佐藤委員	開設のときはオープンに向けてで一杯だったと思いますし、オープン後は運営をいかにしていくかということで一杯だったと思いますが、こうして数字が出てきて、利益が思わしくなくなると、今度は本気になっての経営になると思いますが、数値目標などを設定するにしても、どこに責任があって誰が統括責任者としてきちんと管理していくかということまで、今度は議論していかなくてはいけないと思います。
井熊委員	数字の上で質問ですが、3ページの売上高と5ページの売上高はどの部門を見ても数字が違っていますが、収入と施設全体の売上とどのような関係があるのか。あと、ここにある飲食や物販の数字は総売上高を示しているのか、それともテナント料のようなものを示しているのですか。
事務局	3ページと5ページの売上の数字が違うのは、市の委託料が含まれているかいないかの違いです。それと飲食と物販の売上の数字は、一旦売上額は全て(株)ろまんちっく村の収入になりますので、これが飲食・物販の売上の総額という形になりまして、そこからテナントに業務委託料を支払っています。今は最高で88%の委託料を支払っていますので(株)ろまんちっく村には12%が収入として入るという仕組みになっています。ただ、テナントによって委託料率が違いパラツキがあります。また、委託料ですが会計上は原価で計算していますので、原価によりテナントに委託料を支払っています。
山田委員	今回の見直しは(株)ろまんちっく村だけではなくて、農林公園全体の見直しも含めてということですね。
事務局	そうです。
山田委員	そこで一つ質問ですが、駐車場は台数は何台とめられますか。また、駐車場は増えているのですか、増えていないのですか。
事務局	1,100台です。オープン当時から同じです。
山田委員	ということは、キャパシティがだいたい100万人から前後しているということで、駐車場の数に左右されているという傾向はないのでしょうか、駐車場のキャパがそれ以上に必要なのではないのでしょうか。
事務局	やはり、ピーク時というか、かなり賑わう時には不足している状況です。あとは、青空市の駐車場や温泉館の駐車場は特に狭いものですから、集中して慢性的に不足している状況です。
山田委員	それと合わせて、未買収地域等について整備が関係するということで聞きたい。この

事務局	未買収地域は買収してどのように活用していくのか、ということも含めて検討事項だと思いますが、例えば駐車場を増やすというようなことを含めて、何らかの検討方向がありますか。
事務局	まだ、駐車場を増やすというところまでの議論は出ていません。未買収地域につきましては農園スペースが足りないので、農業体験や農園スペースとしての活用、あるいは、何か公園施設的な活用ができるのではないかとイメージです。
会長	第1調整池に車が入っていますよね。
事務局	職員や宿泊のお客様用に利用しています。
小池委員	先程の話と重複するかもしれませんが、資料に年度別の売上高がありますが、フラワードームやクワ施設、露店風呂などありますが、事業別に採算がどうなっているかは出していませんか。例えば、飲食部門では人件費がどのくらいかかっているとか、粗利益はどうなっているか、最終的な利益がどうか、それから物販についてはどうなっているとか。つまり、売上高から見れば確かに飲食部門とフラワードームの部分が落ちていると分かりますが、採算性から見たらどうなのかという点なのですが。
事務局	部門別損益ということですか。
菅野委員	ついでに、3億円の使い道を教えてほしい。どのようにかかっているのか資料からは分からないですね。
事務局	部門別損益ですが、どうも会社一本でやっていますのできちんと出ていない部分がありまして、共通経費的な部分があるものですから、その割り振り方とかありまして、部門ごとの売上は出るのですが、経費の方の割り振りがどうも上手く現場のほうで出ていないということがあります。
小池委員	一人あたりの人件費がどのくらいで、その人が飲食部門にどのくらい関わっているか。例えば、50%関わっているとしたら、その人の人件費の半分はここでもって経費としてみてしまうというようなことがどうなのか。実はですね、施設の利用者数をこの売上高で割ってみました、そうしますとだいたい飲食部門で一人あたり使っている額が954円、物販部門は一人あたり1,018円くらい買っているんですね。こういうように、一人あたりがどういう状況になっているというようなものを考えていかないと、抜本的な対策にはならないのではないかと感じがします。
事務局	先程の部門別の経費につきましては、例えば、管理部門の人件費等の共通経費については、収益部門が67%、公益部門が33%ということで割り振っています。
小池委員	今、地ビールはいくらで販売していますか。
事務局	現在は330mlで税込み500円で販売しています。
小池委員	地ビールは目玉だと思うんですね。
事務局	3億円の使い道ですが、資料の2ページに公園施設の維持管理及び運営という項目がありますが、公園施設の維持管理業務、建物、駐車場、広場、農園等の維持管理、具体的には清掃、警備、機械管理、それから公園の運営ということで、フラワードーム、クラインガルテン、農業体験事業などこれに係る経費です。
菅野委員	それにどのようにかかっているのかを知りたいのですが。削減するとすれば、どこを

	<p>どう削減していくのか、例えばシルバーセンターに委託するなどして削減しない限り経費は減らないと思います。今、実際の経費等の使い道をきちっと出していった方が良いと思います。</p>
事務局	<p>概算で申し上げますと、清掃警備等の委託料が年間1億円かかっています。特に建物や公園の清掃、警備、機械の維持管理料です。次に光熱水費等で、やはり1億円かかっています。経費的にはその二つが大きいものです。</p>
小池委員	<p>駐車料金は全く取っていないのですね。</p>
事務局	<p>無料です。</p>
井熊委員	<p>3億円というのは、この業務の内容からみて高いか安いかという、第三者からみた評価はしていますか。</p>
事務局	<p>そこがなかなか難しいところでして、公共施設ですので、例えば公園あるいは体育施設、文化施設のように必要な経費としてとらえるのか、あるいは、株式会社が運営しているのだから赤字としてとらえるのか、とらえかたによって違うものですから。</p>
井熊委員	<p>例えば、建物やフラワードームの維持管理や運営のところには人件費をカウントすれば分かりますから、第三者の評価で高いのか安いのかというのは可能ですよね。それについては特に今まで行ってないんですか。</p>
事務局	<p>特にやっていません。</p>
山田委員	<p>オープンして7年の間にテナントの見直しということで、当然、客向きの悪いところは替えていくというのは原則だと思いますが、その部分でテナントの入れ替えはどのようになっていますか。</p>
事務局	<p>撤退したところを補充したことはありますが、会社のほうから積極的に入れ替えたことはありません。</p>
会長	<p>公園の事例がいくつか紹介されていますが、かなり早い時期に神戸の農業公園が整備されて、あそこは入場料を取っているという話でしたが、状況はつかんでいますか。</p>
事務局	<p>ワイン城ですね。かなり経営は苦しくなったと聞いています。年間4億から5億円の赤字を抱え苦しんでいると聞いています。</p>
鈴木委員	<p>人件費はだいたい年間どのくらいか。パートの時給なども分かればお願いします。</p>
事務局	<p>人件費は全体で約3億円、収益部門と公益部門を含めて約3億円です。正社員とパートも含めまして約3億円です。</p>
井熊委員	<p>例えば、今回の見直しで今の赤字の大きな原因となっているフラワードームについて部分的に閉鎖するとかそういうところまで検討できるのですか。</p>
事務局	<p>行政財産になりますので閉鎖するには条例を変えるとか、何らかの理由が必要になります。その辺が民間施設と違って難しいところなんです、国庫補助の関係もありまして、何らかの措置が必要になります。</p>
山田委員	<p>公益性という部分で言ったら、農林公園の公園としての位置づけを占める部分ですね、それと採算を取らなくてはいけない民間部門という部分の区分けが重要だと思いますが、フラワードームをどちらに位置づけるかというのが、その典型だと思うんですね。そういう意味で、市としても公益性の部分はどこまで入っているから、こうしていき</p>

事務局	<p>いというような方向は持っていますか。例えばフラワードームが赤字だといえ、民間ベースでは、閉鎖するか形を変えるかということになります、今までの形で公共性の観点からできないということですね、そのへんはどう考えていますか。</p>
会長	<p>フラワードームは他の公園施設と同じという、公園施設を含めた公共施設、公益部門、公園部門というような位置づけでは考えているところです。ただ、施設の中にはもう少し収益が上がるような、フラワードームの中で収益、例えば飲食、物販あるいは体験施設でお金が取れるようなものにすることはできるのではないかと考えています。</p>
小池委員	<p>今では高校生まで無料でしたね。</p> <p>個別の問題ですが、クラインガルテンは今 59 区画ですが、100%の稼働率ですよ。これに対する申し込みの状況はどうですか。今はもう満杯ですからお断りしているとか。例えば宇都宮市民とは別に県外、市外の人たちの比率が 50%あるとなると道路のアクセスが非常に良いわけですから、いわゆる都会の人たちが週末に来て、自分で手作りの野菜を作って云々というような、ニーズみたいなものがあるかなと漠然と思うんですけども。であるならば、例えばこういうところをですね、利用料金なりを取って、あるいはもう少し拡充されるとか、そんなことも必要ではないでしょうか。59 区画というのは、いかにも少ないような気がします。</p>
事務局	<p>稼働率は 100%ですが、申し込みが一杯でお断りしているという話は聞いていません。継続利用者が多いものですから。</p>
小池委員	<p>対象者は市内の人ですか。</p>
事務局	<p>市内の方と市内に勤務されている方です。</p>
小池委員	<p>クラインガルテンは有料ですか。</p>
事務局	<p>有料です。</p>
小池委員	<p>それは、収益部門のどこに計上されていますか。</p>
事務局	<p>公益部門に位置づけて、公益部門の収入ということになります。</p>
小池委員	<p>売上高でいくとどこになりますか。</p>
事務局	<p>その他に含まれていると思います。</p>
小池委員	<p>1 ページの資料に絵で分けられていますね。フラワードームは公益部門でクラインガルテンもそういう位置づけになると思いますが。その公益部門としての収益性と収益部門の収益性を分けて判断していかないと、フラワードームの赤字を(株)ろまんちっく村のものにしてしまうのも気の毒のような気がしますし、あるいはそういう意味での責任が不明確になり、経営が不明確、不明朗といいますか、クリアになっていないということがありまして、その部分で、今後の収益拡大を望むといったときには、例えばクラインガルテンのようなものを拡充していったときに、どうなるのかということもありますし、その分けというのをより明確にさせていただいたほうが判断しやすいと思います。</p>
事務局	<p>一応、会社の内部で公益部門と収益部門に分けて、売上と経費を出してはいます。</p>
山田委員	<p>私が冒頭に申し上げたように、今回のテーマが(株)ろまんちっく村の収益性改善であれば、それに対してです、農林公園全体ということでしたらですね、公益性の分野もありますので、では公共性を踏まえたコストをどこがどう負担していくかという観点が</p>

	<p>必要だと思いますし、かつ、対象者を増やしていくということが、おそらくはまず第一のテーマでもあるだろうと思うのですが、では、来場者を増やそうといったときには、公益性の部門が実は集客力を持っているといううんでですね、必ずしも温泉に客が来ているから良いというものではないと思いますので、だとすると公益性の集客、魅力をどう高めていくかというのが、どうも大きな検討テーマだと思いますので、その辺の公益部門と収益の(株)ろまんちっく村の部門をより明確にさせていただいたほうが議論しやすいし、理解しやすいと思います。</p>
井熊委員	<p>そういった意味では、先程より皆さんが言われているような、部門別のざくっとした収益やその根拠、投資へのスパンなどを出さないと判断が難しそうだと思います。フラワードームは補助施設で補助金の期限の問題もあるでしょうけれども、今は補助金の用途も結構柔軟に対処してもらえますので、どの辺まで柔軟に行けるのかを検討すべきです。というのは平成8年の整備で今が平成16年ですから、そろそろ大規模な更新ということで大きなコストがかかってくる時期だからです。そういうことを考えていくと、補助金を使わないほうが安かったというような話もあり得ます。そういうことも含めて部門別にコストと収入を出したほうが良いと思います。完璧なものではなくても結構です。全体的に方向性が見つめるもので良いと思います。</p>
佐藤委員 事務局	<p>広報の手段というか、広報活動はどのようなことをやっていますか。</p> <p>毎月1回の広報誌ではほとんど1ページが専用ページで、ろまんちっく村の行事やイベント等の紹介ページになっています。その他には「ろまんちっく村だより」というチラシを公共施設に置いています。また、市のホームページや昨年の暮れ頃からは高速道路の県内のサービスエリアやパーキングエリアにポスターを貼っていただいています。</p>
佐藤委員 事務局	<p>イベントは年間、何か自主的なイベントはやっていますか。</p> <p>イベントは来園者向けに四季それぞれに行っています。</p>
井熊委員 事務局	<p>先程、市内・県外・県内の話題がありましたね。これまでのご検討で、どの辺の人達を伸ばしていこうという、ターゲットについてご議論された経緯はありますか。一番お金を落としてくれるのは県外でしょう。ターゲットとしては多分、県外の人に来てくれるのが理想なのではないでしょうか。</p>
事務局	<p>お金を落としてくれるのは多分県外の人です。また、エージェントと契約して組み込んでもらうとか。例えば日光や鬼怒川への旅行者に夕方立ち寄ってもらって東京方面に帰ってもらうようなことも行っています。</p>
井熊委員	<p>公共性という目的からすると、なるべく多く市内の人ということになるのかもしれませんが、経営というと、できるだけ県外の人に来てもらって、旅行ベース、旅行感覚でお金を落としてもらったほうが収益は上がると思います。</p>
会長 事務局	<p>宿泊はほとんど県外の人ですか。</p> <p>埼玉など県外の人が多いです。</p>
会長	<p>これから改善方向を皆さんに検討してもらっていくにあたって、施設整備にかかる、ようするにハードのための改善と大きくソフトですね。ハードに関する改善というのはこれ以上なにか投資するというのは許されるのか、その辺はどうなのですか。この第3</p>

事務局	<p>駐車場の周りなど、私も昨日はじめて行って見ましたが何もやっていないですよ。展示館とか体験センターは本当に何かイベントで使う以外ないのでしょうか。あの芝生の管理も容易なことではないですよ、あの面積。これ以上なにか施設関係に投資をするというのはどうなんだろうな、むしろだからソフトにおいて活用していくということが重要になるなという感じをもっています。どうなんですか方向性としては。</p> <p>例えば新たな施設関係の投資につきましても、行政が全部やる形ではなくて、民間の事業者が新たな施設の投資と運営もやれるというような、上手い仕組みができないかと考えています。</p>
井熊委員	<p>例えば民間の管理者を選んだら、その人のリスクの中で収益に見合って何か、新しい物販センターを造るといったような形ですか。</p>
事務局	<p>例えば料金が取れる施設や、あるいは飲食施設でも、投資をしても回収が可能な施設、それを投資をするのと運営するのも一緒になって民間事業者ができるようなもの、そういったものが何か考えられないかと思っています。</p>
会長	<p>利用者の分布といいますか、それから駐車場の分布と、四季の森をはさんで右と左ではかなりのアンバランスですね。全体として何か活性化するものはないですかね。</p>
井熊委員	<p>混んでいる時は第3駐車場に車を停めて、物産館などに皆さん歩いて行かれているんですか。</p>
事務局	<p>第3駐車場からフラワードームや飲食・物販施設に行く人はいないと思います。普通は第2駐車場を利用されていると思います。</p>
菅野委員	<p>連続性がないんですよ。土曜日に資料を見ないで行って、四季の森をぐるっと回って何だこれはと思って帰ってきたんですが、帰って資料を見たら、別に未買収地などあるので、これはもう一回見なくては駄目だと思って行ったんですが、そのくらい連続性がないんですよ。土曜日行ってみただけ、広い方はちらほらと人が居るくらいですから。あそこに行ってみようという感じにはならないですね。あの森から出ようとする、そのところの連続性というのが別の施設のような感じがありますから。</p>
事務局	<p>そちらの方にも魅力のあるものを造って、その間を何かでつないぐ。歩くのもあそこではなかなか分かりづらいので。色々な施設に行きますと、例えばそこに無料の馬車や今流行の電気自動車を走らせるなど、そういうもので運んでいるようです。何かそのようなもので奥に魅力ある施設があって、そこまで運ぶ仕掛けがないかと考えているところです。確かに奥まで行く人はあまり居ないですね。</p>
増田委員	<p>常陸那珂臨海公園は、子供電車のようなもので大人も子供も花を楽しみながら一周できます。そういう仕掛けをしないと、一度駐車すると何度も駐車場を換えて移動する人は少ないと思います。</p>
事務局	<p>さわやか広場に年間何回か来ていただける程度ですから、こちらには何も無いんですよ。例えば親水性ということで大きな第4調整池がありますが、これは雨が降った時だけ水が溜まるだけで、ここを池にしたり仕掛けができれば良いのですが、残念ながらここには水が出ませんのでホテル池など整備はしてあるのですが水が流れません。また、我々農務部としましては当然、生産・加工・販売の一連の流れからここに加工所が欲し</p>

	<p>いと思いますが、やはり加工所を造るのにもお金がかかってしまいますし、また採算が取れなくなってしまう可能性がありますので。これは自治体が造ると駄目ですが、民間の考えならば滞在時間も長くなって全体的にはプラスになると、民間意識では造れるかもしれませんが、自治体の施設としては造りたくないというのが市の考えです。また赤字が増えてしまいますので。</p>
井熊委員	<p>民間がさわやか広場の方に新しいものを造るとしたらすごいリスクですね。なるべくフラワードームなどを何とかして、こちら側に作りたいと思うんじゃないでしょうか。</p>
増田委員	<p>調整池の周りに何かこう話題になるような、桜で埋めつくすとか。補助だったら、言われたとおり手前のほうにとなりますが、奥の方が地代が安いとしたら、むしろ伊賀の里モクモクファームの成功例があるのですから、手づくりファームのような加工の工場を農協と組んで造るとか、更にそこでの名物ができれば良いんですが。お客さんはみんな中年の安いから来るような方ばかりで、ただ数字が良いからといって伸ばしていくのが果たして良いのかどうか。今まで出てきた数字で40歳から50歳代が半数だからそれに合わせてやるというのは、必ずしも良い方向ではなくて、逆に収益的には悪くなるかもしれないですね。ヤングファミリーはただ安いからとか、泥つき・土つきの素材、例えばゴボウやニンジンを買って行って料理はあまりしませんので、むしろ加工度の高いものや手作りのものなどで引っぱることができます。ですから狙うターゲットに合わせた売の中身の検討と、先程言いました話題になるような桜やコブシの園を造れたら良いと思います。</p>
事務局	<p>私達も考えてはいるのですが、例えば北側にある保全樹林、これは人工林なんですけど、ここを上手く利用すれば花木は植えることはできますし、そういうものの活用はできると思います。それから未買収地は農場、田んぼや畑になっているんですが、例えば借りられるということになれば、大きな規模で四季おりおりの花を植えたりできますし、上にはハーブ農園がありまして、こちらも評判がよく、6月にはハーブ祭りをやりますがかなりの来園者があります。その他に議会等からは団地化された何町歩もあるお花畑にしてはどうかという提案などを受けています。</p>
増田委員	<p>先程、クライנגアルテンは利用率100%ということですが、要望はあるのですか。3倍なのか2倍なのか、それによっては拡大していくことも良いのではないかと思うのですが。</p>
佐藤委員	<p>これは市内の方しか使えないのですか。</p>
事務局	<p>市内の方と市内に通勤されている方です。</p>
佐藤委員	<p>市長の施策の一つに都市間競争の中で、県外からクライングアルテンを利用する人を呼び込むということもおっしゃっているので、今後の見直しの中で一つの目玉にしていった方が良いのではないかと思います。街の中心市街地と同じで、イベントも確かに必要なんですが、イベントに集中してしまうとただのイベントになってしまって、結局、常時目玉になるような仕掛けを作っていくほうが良いと思うんですね。イベントは365日できませんから、365日耐えられるような目玉をクライングアルテンにしてもそうですし、お花畑もそうだろうし、そういったものを一つ作っておく必要もあるんじゃないか</p>

<p>事務局</p>	<p>と思うんです。</p> <p>先程の伊賀の里モクモクファームや岐阜の昭和村ですが、やはり加工したり体験したり、ただ見るだけではなくて、自分で作る、自分で学ぶなどそういったものが最近人気があるようでして、そこをどうやって取り込むかが今後の改善のカギになるのではないかと考えています。</p>
<p>井熊委員</p>	<p>将来、民間を入れて経営を改善していくときに、宇都宮市さんの姿勢によって、手上げる民間のタイプが変わって来ると思います。例えば3億円の赤字は現状のままで良いから、さわやか広場を中心としたところを、やはりもう少し良いものにしたいということであれば、リスクを取ってでも投資しようという経営志向の民間が来るかもしれませんし、左側の方だけを運営して委託料をなるべく削減するというのであれば、維持管理業務が上手い民間企業が来るかもしれません。その傾向は、事業主がどのような姿勢をとるかによって変わってくる部分があると思います。拡大方向で行くか、あるいは今あるところの収益改善を考えるのかということですね、拡大方向でも最低でもさわやか広場があるところは何とかなければいけないとか、明確な意思表示があって、手上げる民間事業者が変わってくると思います。最低限でもここはやらなくてはならないという目標と、どのくらいまでは負担はしても仕方がないという辺りをはっきりさせておかないといけません。</p>
<p>事務局 山田委員</p>	<p>まず、3億円は減らさなくてはならないと思っています。</p> <p>今の3億円とも絡むのですが、公益性と収益性ということで区別をされるということですが、例えば公園という位置づけ、公益性の部分ですね、公園は街の中の公園も含めて、市としては負担をされているわけですね。そのような意味からいったら、公園という公益性をどの程度みるのかということと、ここは農林公園ろまんちっく村ということでの収益性も考えるのでどうなのかということが分からないと、どの部分で収益性を上げれば良いのか、例えば投資をする民間、今の井熊委員の話であります、民間企業としてみたときに、投資をしようと思ったときに投資できるような資産も何も無い(株)ろまんちっく村としての運営ということでしたらですね、全部このろまんちっく村全体の資産を持っていれば、そこをどう有効活用するか、どう改善をしていくかということは判断できると思いますが、実際には運営する部分だけ、ということになりますとですね、手を打てる範囲に限られるということになってくると思いますので、そこにいつかの公益性と収益性の区別をある程度方向が分からないと、議論の方向づけが分からないという部分もありますので、ではなにもできないということではなくてですね、ある程度根本的に考えているということだけでも投げただけだかないと、議論の方向が見えない感じがします。</p>
<p>事務局</p>	<p>3億円は減らしていく方向でいきたい。来園者の減少へ対応していきたい。そして、魅力あるものを造っていかねばいけないと考えています。しかし、財政難のため市が新たな投資をするのは難しいので、民間にその分も担当していただき魅力あるものを造ってもらい来園者を増やしていきたいと考えています。民間に何をどこまでやってもらうのか、公共性と収益性がありますから、公共性の部分でも民間に何とかしてもら</p>

	<p>のか、それとも公共性は市が負担するのか、その辺の市の考えやスタンス、区分けが見えないということですね。</p>
井熊委員	<p>今あるものを上手く運営しようという人はいると思います。また、年間十数億売上がありますから、それを伸ばして20億ぐらいにしていいい商売をしようとする人はいると思いますが、それと投資リスクを負えということは、ぜんぜん違うことなので、投資リスクを前提として話をするのか、運営の委託だけの話をするのかで、民間の出方も違うものになるでしょう。</p>
菅野委員	<p>3億円を減らす場合には今かかっているものを相当つぶさないで減らせないと思いますが、昨日見てきた限りでは、つるの里は、これもつぶせない部分なのですか。</p>
事務局	<p>日中友好関連ということがありまして難しいです。</p>
菅野委員	<p>肥料のプラントあれもつぶせないのですか。</p>
事務局	<p>一応、補助施設ということで難しいです。</p>
菅野委員	<p>何年くらいつぶせないのですか、商業と関係している施設は。</p>
事務局	<p>耐用年数の問題もありますので。</p>
菅野委員	<p>それがなくなる限りはつぶせないということですか。</p>
事務局	<p>耐用年数の期間きちんと使用するというのが基本です。ただ、補助期間は8年ということになっています。</p>
菅野委員	<p>逆にいうとそういうところはあきらめて、ここだけは絶対的に負担するという区分けをしてもらわないと、勉強の材料にもならないですね。これは駄目なんです、これもつぶせないです、あれもつぶせないとなると、では3億円かかるのは当たり前ではないかと。逆にいいますと、この管理事務所も多分見た感じでは若い人がいますから、これはプロパー社員ですね。ですから、本当にプロパー社員があそこでやっているほどの仕事があるのかと、クラインガルテンなどの面倒を見ているようですが、本当にああいう人達をプロパー社員として、今後も雇っていくのかということを考えると、とても普通でしたらああいう人は雇えませんよね、この程度の仕事をやるのには。いや、これもプロパー社員だから切れないんだということになってくると、3億円はどこで切れるのかと、逆に我々は聞きたいんですね、どこで切る気があるんですかと。</p>
事務局	<p>例えばフラワードームですが、耐用年数は20年から30年ありますが、躯体は残しながら内容を替えることは可能でして、例えば野菜工場や蘭の展示は食と農の体験などその主旨に則ったものであれば可能だと考えています。躯体を壊すことは難しいですが内容は大丈夫だと思います。</p>
井熊委員	<p>補助施設の補助の内容と、あとどのくらい制約される期間が残っているのかや、どのくらい柔軟性があるのかなどをまとめたほうが良いと思います。</p>
会長	<p>例えばフラワードームの野菜工場などは野菜工場という機能を別のものに置き換えることも可能なのですね。</p>
事務局	<p>可能だと思います。</p>
会長	<p>年がら年中同じようなことをやっているようですね。</p>
事務局	<p>あの施設は市が単独で導入したものですから施設自体は替えることは可能というこ</p>

井熊委員	とです。
事務局	フラワードームのそばに民間がやっている温室がございますね。これに対して、フラワードームで野菜を作ることにする差別性というのは何かあるのですか。
井熊委員	あそこは県の経済連の育苗施設だと思います。
事務局	そのようなところで出来ないものがあるということですか。
事務局	そういう訳でないのですが、機械式の水耕栽培で土ではなくて、年中、光を使って出来ますから珍しさといいますか、最先端技術を使った農業ということで整備しています。
小池委員	この正社員の27名の方というのは、第3セクターの社員ということですか。
事務局	そうなります。
小池委員	この人達の年齢とか人件費がどのくらいか、一人あたりいくらぐらいかというのは出せますか。
事務局	出すことは出来ます。
小池委員	それと今、現場の人達がどういうふうに思われているのか。というのは調査したとか、意見を聞いたとかそういうものはありませんか。要するに現場を担当しているパートさんを含めてですね、皆さん方にも意見がやはりあると思いますので。
事務局	特に意見は聞いていません。ただ市の職員を派遣していますから、そこから意見は聞いています。
小池委員	そのいわゆるプロパーの人達と派遣をしている人達の考え方というか、先程くらいからお話を聞いていますと、これはもう施設ですからという感じなので、もう少し見直しについてそういうものが出来ないかと。我々も一日や二日、いってみてどうのこうのというのは言えないので、年中あそこで働いている人達の意見というのは何かあるのではないかという気がするんですけど。
佐藤委員	現場から出ている改革案やあるいは事業計画はありますか。
事務局	現場からはフラワードームの内容については、大幅に変えてイベントが出来るものや展示をやればどうかという意見はありますが。
佐藤委員	そういったものはやはり現場の意見ですかね。小池委員がおっしゃるように大きなウエイトをしめるとするんですね。良いアイデアを持たれている方もいると思いますので、ぜひそういったものを資料としていただければ。
会長	利用者と直接関わっている方ですね。そういう人達、スタッフの方ですね意見というのは貴重ですからね。
会長	<p>大分ご意見もいただきましたけれども、この後も2回、3回とございますので、その他にもお気づきの点があれば市のほうへお出しただいただければと思います。それでは、大体の事に関して意見はたくさん出していただきましたけれども、事務局の方で整理検討して次回の参考にしたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">～ 閉 会 ～</p>